

■技術実証内容

BBIQ 光回線サービスのインフラ設備（固定通信網）に対して、第 5 世代移動通信網（5G）の主要技術である機能分離技術（CUPS）^{*1} および仮想化技術の適用について実証します。

1. ネットワーク機能の分離

ネットワーク機能は、トラフィックを転送する“データ処理部”（下図は“データ”と記載）と、お客様の認証や統計情報を管理する“制御部”（下図は“制御”と記載）で構成されています。

従来システムは、専用装置で構成しており、制御部の処理能力に余裕があってもデータ処理能力が限界に達すると専用装置を増設する必要がありました。

今回この 2 つの機能を分離し、“制御部”をパブリッククラウド上で構築します（ネットワークのクラウド化）。これにより、柔軟でスピーディな設備増強、あらゆる利用シーンにおける低遅延化やレジリエンス向上が可能となります。

2. ネットワーク機器の仮想化（ソフトウェア化）

機能分離したデータ処理部については、大容量の汎用サーバーとソフトウェアで構成（仮想化）することで、1 台のサーバーに複数のネットワーク機能を構築することができ、収容効率の向上が見込め、またソフトウェア化により、きめ細やかな制御が可能となります。

*1 CUPS（Control and User Plane Separation）

